

東日本 APM ニュース

ASSOCIATION OF PLASTICS MOLDERS, EAST JAPAN

第534号 2022. 6/17

一般社団法人 東日本プラスチック製品工業協会
東京都中央区築地3-12-5 築地小山ビル TEL 03(3541)4321
URL: <http://www.ejp.or.jp> FAX 03(3541)4324
発行人 八尋 一恭

目次

第54回通常総会が開催されました…………… 1
新会長の就任と役員変更のお知らせ…………… 3

事務局レポート…………… 4
異常気象…………… 7

第54回通常総会が開催されました 「経済状況の変化に耐えられる強い会社を上げることが大事」 ～百貨店の経営にみる富裕層の力～



大野会長

令和4年5月19日(木) 上野精養軒において当工業協会の第54回通常総会が開催されました。

通常総会の開催にあたり大野会長は以下の通りご挨拶を申し上げます。

本日はお忙しい中、会員各位皆様の出席を賜り、心より感謝と御礼を申し上げます。オンライン会議ではお会いしておりますが、実際にお目にかかるのは7か月ぶりになります。

さて、日本経済新聞社によりますと、2022年3月期通期の業績について会社予想を公表した1556社に予想のない会社を加えて計算すると、純利益の合計額は、前期比36%増の38兆円の見込みになり、日本企業が最高益だった18年3月期の35兆円を上回るそうです。

そのような日本の製造業の状況の中、会長として令和3年度の重点事業を振り返って見ますと、正会員並びに団体賛助会員加入活動につきましては、コロナ禍もあり、あまり動くことができませんでしたが、何とか増減なしで終了しました。能力開発・技術向上等教育事業につきましては、前年度は開催できませんでした前期の射出成形の検

定もコロナ禍で感染を防ぎながら対策をとり、使用機械を半分、受検生も半分にして、令和2年度は中止となった技能検定も開催することができました。そのため、技能検定の受検申請は84名(射出1・2級計)となり、技能士にも32名が合格されました。

支部活動におきましては、新型コロナウイルスの影響で、残念ながら思い通りの活動はできませんでした。

経済産業省をはじめとした行政の皆様から頂いた情報につきましては、随時オンライン理事会や会報で会員の皆様に提供いたしました。

また、当工業協会主催でオンラインを利用してセミナーを2回開催させていただきました。

昨年の重点事業としてあげさせて頂いたSDGs推進に関しましては、まだまだ大企業に比べて進んでいないのが現状です。グローバル企業をはじめとする大企業は、サプライチェーン上で様々な業者の事業活動に目を配るようになっていきます。SDGsに取り組むことで新たなパートナーシップが生まれ、将来的にはSDGsに対応していることが取引条件になるかもしれません。会社独自の方向性を見出し、できることから手をつけていけばいいのではないのでしょうか。

全日本プラスチック製品工業連合会の活動におきましても、コロナ禍で、イベントはほとんど行

うことができませんでした。

お話が変わりますが、『大衆百貨店 運命の落日』という題名で新聞にでていました。

『セブン&アイ・ホールディング(HD)が2006年に2000億円超で買収したそごう・西武(当時はミレニアムリテイリング)。コンビニで磨き上げた経営管理手法で再生に挑んだが、セブン&アイHDから切り離されようとしている。1970年ごろ、国民の大半が高度成長の上昇気流に乗り、中流階級へと駆け上がっていく意識があった。その舞台装置の一つが百貨店で、積極出店をしたのがそごうと西武百貨店だった。

ところが、バブル崩壊後、過大な負債が両社を苦しめ、そごうは2000年に法的整理(民事再生法)、西武百貨店は2003年に私的整理に追い込まれた。無謀な経営がとどめを刺したのかもしれない。

そごう・西武と競合大手との違いは、富裕層の顧客基盤の差だ。競合大手は宝飾品・美術品などの売上比率が高い。新型コロナウイルス禍でも富裕層は宝飾品などを買っている。そごう・西武も富裕層に食い込もうとしているが、大衆を軸にビジネスモデルを組み立ててきたため、富裕層の顧客基盤が弱い。そもそもコンビニ出身者が首脳陣を固めるセブン&アイHDに富裕層に熟知した人物はいない。あるラグジュアリーブランド首脳が、セブン&アイ幹部が発した言葉を覚えている。「私たちにラグジュアリーをどう扱っていいのか全く分からない」。この首脳は「そごう・西武の売却は時間の問題」と直感した。』

と記者は結んでいます。私も池袋西武・日本橋高島屋でも買い物をするが、違いは判りませんでした。しかし、この記事で「百貨店にとっては富裕層の力の大きさが勝敗を分けること」を知りました。

私たちの会社も、経済状況の変化に耐えられる強い会社を作り上げることが改めて大事だと思いました。本日のご列席の皆様方のご支援・ご協力を重ねてお願い申し上げます。私のご挨拶といたします。ご清聴ありがとうございます。



肥後副会長の司会

大野会長の挨拶に引き続き、肥後副会長の司会で審議が始まりました。総務委員長の上村副会長から以下の議案の説明がありました。

- 第1号議案 令和3年度 事業報告承認の件
- 第2号議案 令和3年度 決算報告承認の件
- 第3号議案 令和4年度 事業計画(案) 審議の件
- 第4号議案 令和4年度 収支予算(案) 審議の件
- 第5号議案 役員改選の件

なお、令和4年度の重点施策については、上村



上村副会長の議案説明(画面中央)

副会長から「4月1日に「プラスチック資源循環促進法」が施行されました。そうしたこともあり、今年度も重点事業としてSDGs(エス

ディーゼス)(事業可能な開発目標)を意識した事業の推進を冒頭に掲げました。新法の施行もあり、ますます私たちプラスチック業界もさらに環境に配慮しながら対応していく必要があります。

また、今年も新型コロナウイルス問題が私たちの生活を脅かし続けてきました。一時期収束傾向が見られたものの、まだまだ以前と同じ生活を取り戻すのは難しい状態です。こうした状況乗り越えるため、当協会としても、官公庁他から有効な情報を収集し、会員の皆様に発信するとともに、皆様の様々なご意見を行政に的確に伝えていくことが重要であると考え事業計画を策定いたしました。』との説明が行われました。

上記議案は、全て原案通り承認され、無事終了しました。上記議案可決後、一旦総会を中断し、別室で今回選任された役員により第396回理事会



理事会議長の山下副会長

が開催されました。その場で、これまで会長職を11年務められた大野会長に代わり住田嘉久氏が新会長に選任されました。副会長には、上村俊彦氏、山下慎一郎氏、肥後武展氏が専務理事には八尋一恭がいずれも再度選任されました。



住田新会長

理事会終了後、総会会場で、肥後副会長から新体制(三役)の発表がされました。また併せて大野会長は上部団体の全日本プラスチック製品工業連合会の会長に就任されるため、今回会長職を退任されることが発表されました。

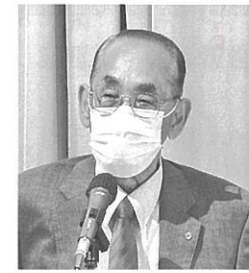
大野会長からは会長職を務められた11年間における会員の皆様のご協力に対して感謝の意が述べ



通常総会の様子

の加藤豊会長から、大野会長と住田会長に向けてお祝いの言葉をいただきました。

新型コロナウイルス感染症の収束が見られないため、今回も残念ながら懇親会は見送りとさせていただきます。通常総会も会員の皆様だけでの開催とさせていただきます。そうした中で、会員の皆様をはじめ、例年会場として利用させていただいております上野精養軒様など多くの皆様のご協力を得まして、何とか2年続けて開催時期を延期してまいりました通常総会を例年行ってきた5月に開催することができました。皆様のご協力に深く感謝いたします。新型コロナが早く終息し、来年の賀詞交歓会や通常総会で会員の皆様や関係者の皆様と懇親会が開催できるようになることを願っております。



加藤連合会会長



新旧会長

られました。

住田嘉久新会長からは、新執行部として、微力ですが精一杯尽くしたく何卒よろしく御協力のほどをお願いしたい旨の挨拶がなされました。

住田新会長の挨拶後、今回お忙しい中ご参加いただきました全日本プラスチック製品工業連合会

新会長の就任と役員変更のお知らせ

令和4年5月19日開催の第54回通常総会において、当工業協会の役員の変更がありました。今回、11年間当協会の会長を務めていただきました大野泰昭会長が退任され、住田嘉久新会長が就任いたしました。また、運営を強化するため、理事の人数がこれまでの34名から1名増の35名になりました。なお、大野泰昭会長は、今後、全日本プラスチック製品工業連合会の会長に就任されることとなっています。また、当工業協会名誉会長兼理事として今後も当工業協会を支えていただくこととなりました。

【住田新会長のご挨拶】



住田新会長

この度、大野会長の後を引き継ぎ、東日本プラスチック製品工業協会の会長に就任しました住田です。どうぞよろしく願いいたします。

大野前会長におかれましては、11年と長きにわたり、協会をリードし、意見を発信してこられたその多大な功績に、あらためて、心からの敬意と謝意を表したいと存じます。

現在、新型コロナウイルス感染症により社会活動が制限され、海外主要都市のロックダウンの影響等により日本国内の資材調達や生産にも大きな影響があります。またロシアによるウクライナへの侵攻により資源の高騰など多大な影響が日本にも波及しております。そのうえ、ここ数年海洋プラスチック問題から始まった石油由来資源からの脱却等、樹脂業界に逆風が吹いております。

このような状況下、会員企業の中から、調達価格の上昇コストを売価に転嫁が上手く出来ていないとか、顧客から使用樹脂の削減を通達されたなど、さまざまな意見を頂き、改めてプラスチック関連企業は非常に弱い立場にさらされていると感じております。

しかし、この逆風を乗り越えるには各企業独自の技術力や管理能力が必要ですが、その技術力を今まで以上に向上させる為には、知恵知識の向上、業界の動向や新技術の情報収集、会員同士の交流、コラボレーション等様々な方策が必要であると考えます。また、このような様々な情報は顧客交渉のアイテムとして利用できると思います。当協会も会員企業が力をつけ発展していけるよう、このような情報や場を積極的に提供していきたいと考えております。

重責に身の引き締まる思いですが、皆さまのご支援ご協力のもと、大野前会長のようなリーダーシップはありませんが、皆様の為になるよう、努力していきたいと思っております。

何とぞ、よろしく願い申し上げます。

【その他理事の変更】

(退任) 安齋由二理事

(新任) 石川忠彦理事

(天昇電気工業株式会社 代表取締役社長) 佐藤正幸理事

(福島県プラスチック工業会 会長)

他の理事及び監事の皆様はご留任いただいております。今回退任される安齋由二理事の当協会へのご尽力に感謝申し上げます。新任の石川忠彦理事、佐藤正幸理事、どうぞよろしく願いいたします。

事務局レポート

■第395回理事会議事録

1. 日 時 令和4年5月19日(木)
13時00分～13時30分
2. 形 式 上野精養軒2F「松の間」
3. 出席者
大野 泰昭 肥後 武展 住田 嘉久
上村 俊彦 山下慎一郎 野坂 晃司
村口 公浩 佐藤 義明 嶋田 修二
内藤 隆夫 渋谷 脩己 平塚 隆文
曾我部 大 原田 裕司 植田 好司
河合 清美 小菅恵美子 滝口 裕
福田 晴通 腰越 稔 関根 忠
平田 照雅 内山 三男 八尋 一恭
以上出席理事24名(理事総数34名)
谷 和雄
以上監事1名

4. 大野会長ご挨拶

本日はお忙しい中、理事会にご参集頂き有難うございます。新型コロナウイルスオミクロン株も感染者数は増減を繰り返しておりますが、徐々に減少しております。感染対策から経済状況を早く上昇気流に乗せて頂きたいと思っております。2022年5月は沖縄復帰50年になるそうです。現在も全国の米軍専用施設の7割が集中し、一人当たりの県民所得は国民所得の7割強にとどまり、基地縮小や経済格差の是正は道半ばだそうです。

お話が変わりますが、コロナで「便利さ」再設計という題名で新聞に出ていました。『セブンイレブン・ジャパンが1973年に誕生したとき、どんな商品を並べるかは手探りだった。まずは親会社のイトーヨーカ堂での売れ筋を採用し、稲荷ずし、巻きずし、即席麺などを用意し、他にも鍋や釜、布団たたきも陳列したそうです。ちなみにセブン一号店で最初に売れたのはサングラスだったそうです。

そして再びコンビニは手探りの時代に突入した。新型コロナウイルスの感染拡大に伴う消費行動の変化ネット消費の普及で地位は相対的に低下した。飽和感も強まりコンビニの「便利さ」を見

直す必要性に迫られているそうです。例えば、セブンは均一価格チェーンのダイソーと提携して専用コーナーを展開し、除菌シートやゴミ袋を販売している。2020年から試験販売を始め既にセブンの全店舗の半分近い一万店に導入しています。これまでプライベートブランドなど、自前の商品政策を推し進めていた同社だけに他のチェーンのブランドに頼ることは社内外から異論も出たそうですが、不得意な部分はアウトソーシングに切り替えたそうです。消費者がセブンに求める雑貨は緊急性の高いものばかりで、普段使いのニーズは弱かったそうです。ところがコロナで外出を抑えた結果、小さなコンビニでも一カ所で買い物が完結できるワンストップショッピングの役割が高まったそうです。新たなマーケットを作り上げたコンビニも日本での誕生から半世紀になり、他の小売業の後追いに陥りつつある「近くて便利」とどまらず、潜在需要をつかめれば、消費者に「いい気分」も提供できそうだと結んでいます。

コンビニ誕生も沖縄本土復帰とともに50年になります。コンビニ誕生は企業として時代の要望の大切さを学びました。沖縄本土復帰は現在戦争が行われているウクライナの苦しみと沖縄人の戦争に対する苦しみを重ねるような思いました。

本日、懇親会は新型コロナウイルスの対策としてごさいませんが、理事会・総会と続きますのでスムーズな進行をお願いしまして、ご挨拶に代えて頂きます。有難うございます。

5. 専務理事より定数の報告

事務局より理事数34名のうち出席理事は24名であり、定款第33条の規程により過半数の理事の出席があり、本理事会が有効に成立している旨の報告がなされた。

6. 議長選出

定款第30条の規程により会長が議長に選出された。

7. 議事録署名人

議長は、定款第34条により、同人と出席の谷監事に記名捺印をお願いし、了承された。

8. 議 事

議題1. 経過報告(第394回理事会以降の主要行事)

以下専務理事から説明を行った。

- (1) 役員会等の開催
4月14日 第394回理事会 オンライン会議
- (2) 全日本プラ連合会
5月12日 第112回正副会長会
安部ホール(名古屋)
- 以上議題1について諮ったところ特に異議なく了承された。

議題2. 会員の入会・退会状況

以下専務理事から説明を行った。

- (1) 入会の部
正会員 2社
会社名 (株)新興化学
所在地 東京都大田区大森東2-34-10
代表者 小野寺 誠
取扱製品 O A 機器、移動用通信機器、工業用各種製品等の製造

- 会社名 渡辺化成工業(株)
所在地 神奈川県横浜市鶴見区駒岡2-2-42
代表者 渡辺 克己
取扱製品 電子機器機構部品、自動車部品、照明器具部品、医療機器部品等製造

- (2) 退会の部
賛助会員 1社
会社名 (株)伊東商会
退会理由 コロナ禍で活動が十分でなかったため。

- (3) 会員の増減
- | | 正会員 | 賛助会員 | 計 | 団体 |
|----|------|------|------|-----|
| 前回 | 156社 | 66社 | 222社 | 7団体 |
| 増加 | 2社 | 0社 | 2社 | 0 |
| 減少 | 0社 | 1社 | 1社 | 0 |
| 現在 | 158社 | 65社 | 223社 | 7団体 |
- 以上議題2について諮ったところ特に異議なく了承された。

- 議題3. 本日の通常総会の件
以下専務理事から説明を行った。

- (1) 出席状況
本日の出席状況
- (2) 役割分担・スケジュール
第54回通常総会スケジュール・役割分担(案)
以上議題3について諮ったところ特に異議なく了承された。

【その他報告事項】

- 以下専務理事から説明を行った。
- (1) 経済産業省資料
①エネルギー・原材料の高騰
クリーンエネルギー戦略の策定に向けた検討(R4.4.14)資料抜粋(資料1)
②ロシアへのエネルギー依存と夏の電力需要
新・素材産業ビジョン中間整理～グローバル市場で勝ち続ける素材産業に向けて～(R4.4.20)資料抜粋(資料2)
- (2) 帝国データバンク資料(資料3)
①新電力会社利用状況
②ロシア・ウクライナ情勢
- (3) 補助金情報(資料4)
先進的省エネルギー投資促進支援事業費補助金

以上その他報告事項について、異議なく了承された。

以上予定議案が終了し、議長は13時30分、閉会を宣した。

■事務局からのお知らせ

- (1) 新規会員のご紹介
今回、以下の2社が当工業協会の新しい会員となりました。どうぞ皆様と末長いお付き合いをよろしくお願いいたします。各企業様のプロフィールをご紹介しますので、取扱製品等にご興味のある方は各企業様に直接お問い合わせいただくか、協会事務局にお問合せください。(以下50音順で掲載させていただきます。)

- ① 株式会社新興化学 様
当社は、創業から52年間、東京都大田区に工場を構え、変化・維持・誠実を理念に、地球環境に配慮したものづくりを目指す企業として活動してきました。

汎用プラスチックからスーパーエンブラまで、幅広い樹脂の製造実績からノウハウを蓄積し、昨今、高機能化が進む特殊な樹脂にも負けない設備の独自カスタムにより、成形機の脱専用機化を実現し、多様化するニーズに対して効率的な生産体制を構築できました。

これからの国内製造業へ今まで以上に貢献するため協会へ賛同させて頂きまますのでよろしくお願い致します。

② 渡辺化成工業株式会社 様

この度、皆様の仲間に入れて頂く事になりました、渡辺化成工業株式会社と申します。

弊社は、1963年12月に東京都世田谷区にて創業致しました。2023年には60周年を迎えます。

横型一般成形を中心に基本を忠実に守り続け現在に到りました。弊社より生産される全ての製品が社会貢献、奉仕に繋がることを理念としこれからも社会に必要とされる企業として成長したく存じます。

宜しくお願い致します。

(2) 製品技術部会のご案内

当工業協会の「製品技術部会」のご案内をいたします。本部会は、部会員相互の連絡協力を厳密にして工業用品を製造するプラスチック成形工業の健全な発展に寄与することを目的とし、生産加工に関する技術及び品質の向上に関する事業等を行っています。現在、38社の会員が入会してあります。これまで、部会の総会時等に講演会を開催したり、賛助会員の皆様をはじめ先進技術をお持ちの企業様を訪問するなどの活動をしてまいりました。近年新型コロナウイルス感染症の蔓延によりこうした活動が制約されてきましたが、昨年度はオンライン会議の形式で講演会を以下の通り2度開催いたしました。



植田製品技術部会会長

① 第1回（令和3年7月8日開催）

■内容：紙パウダー入り複合プラスチック原料「MAPKA®」のご紹介

■講師：株式会社環境経営総合研究所
顧問 川上久夫 様

② 第2回（令和3年8月10日開催）

■内容：成形条件の固定化で儲かる成形工場の実現

～チョコ停及び品質不良が激減し、生産性が大幅にアップ～

■講師：株式会社プラモール精工
代表取締役社長 脇山高志 様
(東北金型工業会 会長)

今年は新型コロナへの感染対策を十分に行ったうえで、3年ぶりに通常総会を対面(於：銀座フェニックスプラザ会議室)で開催することができました。また、総会終了後、以下の通り講演会も開催することができました。

■講演会内容：レーザーを使った新常識！レーザー洗浄装置「イレーザー®」の技術紹介

■講師：東成エレクトロビーム株式会社
技術部兼メカトロニクス事業部
部長 西原 啓三 様

西原部長様からはプロジェクターを用いて画像で当社の技術の紹介をいただいたほか、具体的に機材を用いてレーザー洗浄の技術についてご説明をいただきました。

新型コロナが終息するまでは、オンラインセミナー等も織り交ぜながら、徐々に工場見学等の従来の活動を再開していきたいと思っています。製品技術部会へのご加入をぜひお待ちしております。ご不明な点がございましたら、当協会事務局までお気軽にお問い合わせください。



西原部長様

異常気象

昨今種々の天候異変に関して「異常気象」と言われる現象が多発している。

1. 異常気象とは：

気象庁の定義では、

一般に、過去に経験した現象から大きく外れた現象で、人が一生の間にまれにしか経験しない現象を言う。

大雨や強風等の激しい数時間の現象から数か月も続く干ばつ、極端な冷夏・暖冬なども含まれる。また、気象災害も異常気象に含む場合がある。気温や降水量などの異常を判断する場合、原則として「ある場所(地域)・ある時期(週、月、季節)において30年間に1回以下の頻度で発生する現象」としている。

2. 近年に於ける異常気象の種類：

異常気象として扱われることが多い気象事象は以下の通りである。

出典) 気象庁 HP、日本気象学会 (1998)

- ①冷夏：6月～8月の平均気温が平年より3階級表現(低い、平年並、高い)で低い夏。
- ②暑夏：6月～8月の平均気温が平年より3階級表現(低い、平年並、高い)で高い夏。
- ③寒冬：12月～2月の平均気温が平年より3階級表現(低い、平年並、高い)で低い冬。
- ④暖冬：12月～2月の平均気温が平年より3階級表現(低い、平年並、高い)で高い冬。
- ⑤長雨：数日にわたって降り続く雨。
- ⑥豪雨：1時間または3時間の少なくとも一方が大雨警報の基準を超え、かつ24時間の警報基準を超える大雨。すなわち、「激しい雨」の状態が(断続的に)続き24時間以内に100mm(北日本)～200mm(西日本)以上となる大雨。
- ⑦干ばつ：長期間にわたって降水量が少なく、水不足の状態をいう。
- ⑧台風：北太平洋西部や南シナ海の熱帯低気圧のうち、最大風速が17.2m/s(34ノット)以上のもの。
気象庁ではそれより弱いものは「熱帯低気圧」と定義している。英語のTyphoonは、32.7m/s以上の台風のことを指す。
- ⑨洪水：降雨や融雪等によって河川の水位や流量が異常に増大すること。
- ⑩熱波：非常に高温の気塊が広範囲に波のように広がって急激な気温上昇をもたらす現象。
- ⑪寒波：主として冬季に、広い地域に2～3日、またはそれ以上にわたって顕著な気温の低下をもたらすような寒気が到来すること。

3. 異常気象の発生原因：

日々の各種報道のみならず、気象に関する国際機関が正式報告書として発表する論文においても、異常気象の原因として最も多く言及されるのは、「地球温暖化」であり、更にその主要因は、人間の生産活動に伴い化石燃料の消費から発生する「二酸化炭素」などの温室効果ガスとなっている。

確かに、温室効果ガスが地表の熱の放出を妨げ、気温上昇を招くことは、実験室でも確認されている。

しかし、産業革命(1760～1830)以前、更には地球上に人類が出現する(およそ500万年前)よりはるか昔から、すなわち地球誕生から42億年の間に、何回もの氷河期と水間期を繰り返してきたことが、地質調査や、極地の氷の調査などから判明している。

従って、異常気象の原因は、

- ①太陽活動の影響：太陽表面に現れる「黒点」の多少に代表される太陽活動の変化、それに伴う、磁気嵐、紫外線、赤外線の変化、
- ②地球を取り巻く気流の変化：大きな隕石の衝突や大規模な火山噴火に伴って巻き起こされる多量の粉塵を含む雲の出現と、大量かつ長期間に渡る降雨、に行きつくとも想定される。
スーパーコンピュータのハードならびにソフトの飛躍的な進歩から、要因解析の精度は日々向上しているが、この複雑系の解析には、初期条件の設定などにまだまだ改良の余地が存在する。

4. 異常気象対策：

発生原因が気象の短期的な変動に基づくものと、何十年あるいは何百年間に渡る長期的な変動に基づくものがあり、影響を受ける側の人類や生物にとって、今すぐにも対策が必要なものと、将来に備えて対策すべき項目が混在するため、原因は、種々の要因の相関関係を見極め、将来に禍根を残さない対策を、優先順位を明確にして実行する必要があることは当然である。

平成23年3月11日発生 of 東日本大震災に伴う、原子力発電所の事故を契機として、時の政府はまず原発を止め、太陽光発電に飛びついたが、電気代の上昇(その後、電気買取価格の見直しは継続的に行われている)と発電セルの効率向上ならびに寿命延長、パネルの反射による近隣への光公害、大型パネル設置のための山野開墾による大雨時の水害対策、日照時以外発電出来ない事への蓄電装置とセット化が必要=コスト、などの課題解決はまだ不十分である。

また、今回のロシアによるウクライナ侵攻での燃料高騰とクリーンエネルギー比率向上の要請から、個人の新築戸建て住宅にまで太陽光発電を義務化しようとする動きには、十分なアセスメントが必要と思われる。

(案山子)



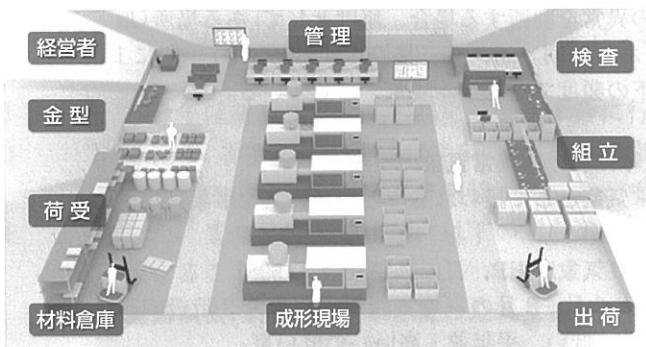
成形工場のIoT／生産管理はムラテックにお任せください!

成形業統合生産管理システム

GMICS

- 成形業の必要項目を網羅したマスタ情報
- 材料価格変動時の単価一括更新
- 分かり易い組付品構成 (多段階部品構成)
- EDIデータ (内示、受注) の取込み
- 工場の運用に合わせた在庫管理
- 担当者が確認すべき手配を案内 (MRP/所要量計算)
- 成形スケジュールと現場監視
- ロットトレース機能

成形業に特化したMES機能を含む統合生産管理システム

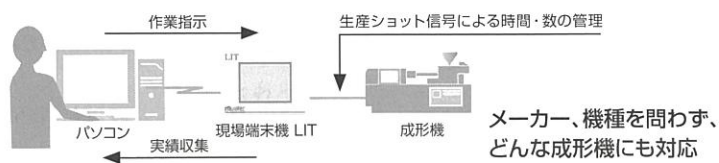
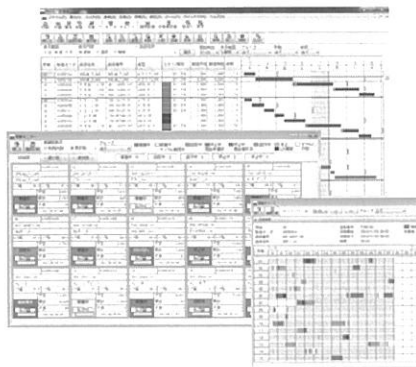


成形工場生産管理システム

MICS7

- 最適スケジューリング作成
- 稼働状況監視
- 実績管理
- オンラインによるリアルタイムな作業指示
- 正確なデータの自動収集
- 保守 (金型・成形機) 管理

成形現場の「見える化」と効率アップをサポートする生産管理システム



ミドルウェア
フォーマットの共通化システムオープン化

射出成形機

生産管理システム

品質監視システム

金型用センサ

西日本プラスチック製品工業協会および近畿経済産業局と協同で、成形機のデータフォーマットを共通化しデータを統合するシステム「Middleware (ミドルウェア)」の開発を行いました。

Middleware と弊社システム製品とのデータ連携強化の取り組みを通じて、プラスチック成形業におけるIoT導入拡大に取り組んでまいります。

村田機械株式会社
ムラテック販売株式会社 ファクトリーソリューション営業部
<https://www.muratec.jp/fs/>

- 東日本支店 / 埼玉県さいたま市大宮区宮町4丁目85-1 〒330-0802
TEL 048(649)6139 FAX 048(647)9446
- 中部支店 / 愛知県犬山市橋爪中島2 〒484-8502
TEL 0568(63)2311 FAX 0568(63)5779
- 西日本支店 / 京都市伏見区竹田向代町136 〒612-8686
TEL 075(672)8257 FAX 075(672)8390